

## 翻訳支援ツール委員会レポート

委員長、JTF 理事 久徳 省三

JTF 翻訳支援ツール委員会では、会員の皆さんに最新支援ツールをご紹介するために、年に三回をメドに翻訳支援ツール説明会を主催しております。平成 15 年度は、12 月 11 日に LogoVista、平成 16 年 2 月 17 日に SDLX の説明会を開催しました。知財翻訳研究所さんが会場を無償提供してくださるので、入場無料です。

お客様から支給される和文原稿も例外ではありませんが、現在世の中に出まわっている日本語には整合性に欠けるものが豊富にあります。同一文書を、納期の関係で複数の翻訳者が翻訳する場合、訳語や表記の整合性を期待することは困難です。

翻訳料金を頂戴して行う和訳文がこのような状態では、業界の地位の評価は低下すると思われますので、当委員会では約一年半かけて和文推敲用データベースを作成しました。

### ■翻訳の環境変化

コンピュータは、かねてから翻訳者にとって不気味な存在でした。1984 年 5 月 18 日の朝日新聞のトップに「自動翻訳機売り出す」という記事が紹介されたときは、自動翻訳が翻訳者の仕事を奪うかと懸念されたものでした。幸いにしてそのような事態にはなりませんでしたが、コンピュータは着実に翻訳の仕事に影響を及ぼしています。

1990 年代にワープロが急速に普及した結果、ワープロが使えない機械音痴の翻訳者は仕事を奪われました。

情報産業の進化は恐るべきものです。犬猫の言葉を理解する装置や、人間の赤ん坊の泣き声を理解する装置が商品化された 21 世紀初頭は第二の翻訳環境変化時代と考えられます。

### ■翻訳需要の変化

パソコンの処理速度の高速化や記憶媒体の肥大化とブロードバンドの普及は、翻訳需要に大きな変化をもたらしています。クライアントから支給される翻訳原稿も、数年前までは紙に印刷したものでしたが、最近は電子ファイルが増えています。クライアントがパソコンを使用してドキュメントを作成していますから当

然でしょう。

その結果、翻訳会社も翻訳者も従来必要でなかったソフトウェアの操作が要求されることになりました。例えば pdf 形式の翻訳、PowerPoint 形式の翻訳、jpeg 形式や bmp 形式のデータを埋め込んだ MS Word 形式の原稿の翻訳が要求されています。

### ■クライアント要望の変化

ここで対象とする翻訳需要は、産業翻訳と呼ばれていた、文芸翻訳や映画の字幕翻訳、新聞記事や証券・金融関連文書の翻訳などを除く分野の翻訳です。これらの翻訳成果物に要求される条件は、文書の分野や目的により一概に断定できません。従来の品質重視の論文や印刷物用の翻訳もありますが、大量文書を短納期で安い料金で翻訳してほしいという需要が増えているようです。

当然、翻訳者には過大な労力が要求されます。また、大量文書を短納期で翻訳するには一人の翻訳者では物理的に不可能なので、翻訳会社は同一文書を複数の翻訳者に依頼することは避けられません。

翻訳作業を人間が行う作業とパソコンができる作業に分けて、パソコンができることはパソコンにやらせることが必要となります。その場合、翻訳支援ツールは欠かせないソフトウェアです。

### ■翻訳支援ツールの現況

日本翻訳ジャーナルの 2001 年 3/4 月号 5/6 号でご紹介したとおり、翻訳支援ツールには機械翻訳 (MT)、翻訳メモリ (TM)、その両者を備えたもの (MT+TM) があります。翻訳メモリ機能のソフトウェアを提供なさっていらっしゃるメーカーさんが増えた以外、大きな変化はありません。

最近では翻訳メモリ (TM) 機能の支援ツールは CAT (Computer Aided Translation) ツールと呼ばれているようです。

以後 CAT ツールと呼びます。

その記事を書いたときは使用していなかったのですが、[訳語付与] と [用語確認] 機能を備えた SuperHT<sup>3</sup> は、時代の要求にマッチした支援ツールです。

一方、従来 CAT ツールの使用を条件にする案件の大半は IT ローカリゼーション分野だったのが、最近では例えば自動車など、他の分野でも使用されはじめたようです。

米国企業のウェブサイトのローカリ

ゼーションが本格化すると、米国企業は翻訳メモリや用語集の管理が得意なので、CAT ツールの使用が要求されることが予想されます。

### ■和文推敲用データベース

JTF 翻訳支援ツール委員会では、貝島良太さん (JTF 個人会員、JTF 翻訳支援ツール委員、十文字学園講師) が日立国際ビジネス社に在職中に開発した SuperHT<sup>3</sup> をビューアとした和文推敲用データベースを作成しました。

翻訳業界でお馴染みの「文章・用字用語ハンドブック」の姉妹編「説得できる文章・表現 200 の鉄則」の「付録 3 漢字と仮名の使い分け」をベースに作成したデータベースで SuperHT<sup>3</sup> で和文の表記をチェックする支援ツールです。同書の著者である永山嘉昭さんに監修していただきました。

このデータベースが完成したら JTF のウェブページに公開して業界の皆さんにご利用いただく予定でした。

残念ながら、JTF 理事会で審議の結果、JTF が特定ソフトウェアを使用しなければならぬデータを提供することは好ましくないとの理由で、JTF のウェブページでは公開しないことになりました。

SuperHT<sup>3</sup> は日米の特許を取得したソフトウェアで、所有者の貝島さんは、現在この特許権を許諾しない意向ですから、他の支援ツールのように類似品はありません。

したがって、以下の貝島良太さんの「アトリエワン」のウェブに公開致します。

<http://www.bow-wow.jp/sh3/>

### ●データベース作成の動機

私は SuperHT<sup>3</sup> を使用する前は、和訳の仕事を受納前の最終推敲をする際に、「通り」や「及び」など自分が間違えやすい表記を約 50 個エディタの [検索] を使用してチェックしていました。

SuperHT<sup>3</sup> を使用しはじめて、このソフトが持つ [用語確認] 機能でこれを代行できないか試しました。約六万字の和訳文をチェックするのに [検索] では少なくとも一時間はかかったのが、SuperHT<sup>3</sup> ではわずか 6 分でできました。

翻訳者が訳文を推敲するときは、大概納期寸前で、納期に間に合わせるために睡眠不足が続いたときに行います。

通常の場合でも、他人が書いた文章の間違いはすぐ分かりますが、自分が書いた文章の間違いは何回読み直しても分か

りません。馬鹿正直なパソコンがやってくれば一発で分かります。

しかも、このソフトの場合は間違いのおそれがある表記を指摘してくれるだけで、ソフトが勝手に直すことはありません。あくまでも訂正はユーザーが行います。

### ●和文推敲用データベースの効果

SuperHT<sup>®</sup>を起動し、Word などと同様に「ファイル」→「ファイルを開く」で推敲する文書を読み込みます。

画面の上半分に推敲する文書が表示されます。

ツールバーに「辞書変更」というボタンがあるので、和訳推敲用データベースのファイル名を指定します。

あとはツールバーの「用語確認」ボタンをクリックすると、SuperHT<sup>®</sup>は自動的にチェックを行います。

推敲が終わると、画面上半分に表示された文書の中に表記が間違っているおそれがある箇所の色が赤系統の色で表示されます。

画面の下半分には、間違っているおそれがある表記を含め、一覧表示されます。間違い用語の右には「選択候補」として修正候補が表示されます。

一覧表中の「解説表示」ボタンをクリックすると、その用語の解説が表示されます。

例えば、赤で表示された「はじめて」の「解説表示」ボタンをクリックすると、『【副】○初めて×はじめて』の解説が表示され、「はじめて」を副詞で使用する場合は漢字で書くのが正しいことを指摘します。

「いちがいに」が赤で表示された場合は「解説表示」ボタンをクリックすると『【副】○一概に×いちがいに』と漢字表記が正しいことを指摘します。

「という」の場合は『【動】○言う×いう【例】言うまでもなく、言うことを聞く、はっきり言って【連】○いう×言う【例】

そういう人、そういえば、なんとということだ』と詳しい解説が表示されます。

「及び」は『【接】○および×及び(注)法律名は「及び」【動】○及ぶ×および』と、接続詞と動詞の違いで漢字かひらがなが違うことが解説されています。

ツールバーの「詳細」をクリックすると、指摘された表記の前と後の表記が表示されますから、その表記は接続詞として使用したのか、あるいは動詞として使用したのかどうかはすぐ分かります。

### ●和文推敲用データベースの内容

これら、間違いやすい表記の例の大半は前術の「読得できる文章・表現200の鉄則」の「付録3 漢字と仮名の使い分け」をベースにしたもので、全部で619件あります。

すべて当委員会が各種辞書で確認し、不必要な指摘が最小限になるように修正してあります。

これらをすべて記憶している和訳翻訳者は、世界広しといえどもまずいなと思います。

### ●SuperHT<sup>®</sup>の主な機能

SuperHT<sup>®</sup>は、通常用語集は原語と訳語が対になっているのに対し、複数の原語に複数の訳語を指定できるユニークなツールです。

翻訳に使用する際は、「訳語付与」と、「用語確認」機能が威力を発揮します。

その詳細は、前述のアトリエ・ワンのウェブサイトをご参照ください。

このSuperHT<sup>®</sup>は日本規格協会が発売した「JIS工業用語大辞典[第5版対応]CD-ROM」にバンドルされているので、お持ちの方も多いかと思います。

ユーザー辞書の作成が面倒で使用していないケースが多いようですが、この和文推敲用データベースはSuperHT<sup>®</sup>のユー

ザー辞書になっているので、ダウンロードすればすぐ使用できます。

アトリエ・ワンのウェブサイトには、この他にも多くの用途別ユーザー辞書が提供されています。

### ●SuperHT<sup>®</sup>の斡旋販売

この和文推敲用データベースの完成を記念して、アトリエ・ワンではJTF会員を対象に、通常38,000円を26,600円(プラス消費税)でSuperHT<sup>®</sup>の特価販売を行います。

期間は2004年5月10日までで、会員資格は法人、個人、賛助会員のいずれにも適用されます。

アトリエ・ワンのウェブサイトから申し込みください。

### ■意外な支援ツールの効果

翻訳支援ツールを使用して翻訳の仕事をする、本来の効果とは別に意外な効果もあります。

私は、少なくとも二カ月に一度は原稿の間違いを発見し、訳文を納品する際に訳注で指摘して、お客様からお褒めいただいています。

翻訳メモリーを使用してファジーマッチで検索すると、表記の不整合はもとより、数字の誤りまで分かります。人間の記憶力が、いかにあてにならないかが、よく分かります。

翻訳者仲間の会合のときなど、翻訳支援ツールの使用状況をお聞きすると、現在の使用状況は芳しくありません。

発注者側に経済的メリットがあるので、CATツールの使用を条件とする仕事は今後増えると思われます。

需要変化を認識して、ワープロが使えないため仕事を奪われた翻訳者の轍を踏まないようにしましょう。

## High quality

## New standards in translation

## Prompt service

取扱言語 英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語・ロシア語・中国語・韓国語 等(その他言語にも対応しております)  
 取扱分野 特許・工業・医薬・金融  
 取扱内容 翻訳・メディカルライティング・ネイティブチェック・通訳・印刷・テープ起こし 等



**HONYAKU  
CENTER**  
New Standards in Translation

since 1986  
株式会社翻訳センター

大阪営業部 〒541-0046 大阪市中央区平野町2-5-8 平野町センチュリービル9F  
 東京営業部 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-8-10 虎ノ門15森ビル3F  
 日本橋営業部 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-2-13 アドバンテック日本橋ビル1F  
 名古屋営業部 〒450-0002 名古屋市中村区名駅3-12-12 竹生ビル2F

tel: 06-6202-3287 fax: 06-6204-0608 osaka-g@honyakuctr.co.jp  
 tel: 03-3502-1921 fax: 03-3502-3521 tra-g@honyakuctr.co.jp  
 tel: 03-3242-3831 fax: 03-3242-3835 nbo@honyakuctr.co.jp  
 tel: 052-571-2101 fax: 052-571-2103 nagoya@honyakuctr.co.jp

翻訳者を募集しております。

[www.honyakuctr.com](http://www.honyakuctr.com)

詳しくはウェブサイトをご覧ください。